

隨泉寺寺報

平成 26 年 (2014 年) 10 月号 第 530 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季永代経法要

講師 浄泉寺住職 加藤一英師

講題 『入出二門偈に聞く』

■永代経法要 ～縁のある人々のご恩を偲ぶ法要～

歩んだ道をふり返って確認 だいじょうぶ だいじょうぶ
だってあなたに会えたもの いままでの全てに ありがとう 澤田直見

不思議な縁で親子兄弟、夫婦となりました。子育てをいただいたご恩、教えていただいたご恩、そのご恩を永代忘れません。自分の人生を振り返り ようこそ、ようこそ、出会うことができました。

永代経の懇志は、亡くなられた方をご縁にして、お寺が護持され、それによってみ教えが「永代にわたって維持されますように」という願いが、実は永代経懇志を進納する人の本来の願いです。

今回のご講師は浄泉寺の加藤一英先生です。今一番活躍されている先生です。とても解りやすく、それで一番大事なことをお伝えいただけることは間違いありません。どうぞ時間を空けて、体をあけてお参り下さい。

10月の法座予定

- 10月 2日 …………… 本部役員会
- 10月 3日 …………… 研修旅行 江田島三ヶ寺
- 10月 12日 …………… 掃除 中須賀
- 10月 15日朝席午前10時より …… 門信徒の集い おとき
- 10月 15日昼席午後1時より …… 秋季永代経法要
- 11月 2日午後5時より …… 門信徒会本部役員会

☆ インド紀行 (3)

2月27日はお釈迦様の誕生の地であるルンビニのある町へ向かいました。ルンビニはインドの隣であるネパールにあ



と
る
へ
に
し
が

仏蹟地なので、国境を越えてネパールへと入国しルンビニと向かいました。ルンビニは1997年にユネスコの世界遺産指定されていることもあり、とても綺麗に整備されていました。マヤ堂という建物があり、その建物の中にはお釈迦様



正にここで誕生されたというマーカーストーン（誕生地点を示す）という石があるのです。堂内は発掘調査の遺構を建物で覆うような形になっており、堂内の中心にあるマーカーストーンまでは橋(?)のような路が設けられていて、マーカーストーンまで近づく事ができ、拝見することができました。マヤ堂の裏側にはお釈迦様の産湯に使われたとされる池がありました。その池の向こう側からマヤ堂へと向かってタイの仏教徒の人々が熱心にお勤めをされていました。総勢100人以上いたと思われる団体は僧侶以上に信者の人の方が多かったです。他国の仏教徒の人たちの姿を見ていると、

仏教が現在も間違いなく世界中で生きていて、たくさんの方の人生の拠り所となっている事に安心したような嬉しい気持ちになりました。

この日は法華ホテルというホテルに泊まりました。以前は日本の企業が経営していたホテルということもあって、何と大浴場が設置されていました。もちろん食事は日本食です。インド滞在三日目にして日本食か... と少しがっかりしましたが、意外にしっかりと美味しい味付けの日本食でしたのでとっても美味しくいただきました。やっぱり日本食は美味しいと改めて実感しました。ちなみにインド滞在中の食事はカレーばかり、というイメージですが意外にカレー以外のメニューもたくさんあります。カレーでもたくさんの種類があり、ベジタリアンの多いインドでは野菜を使った様々な種類のカレーも多くありました。滞在中はできるだけインド料理しか口にしないようにしようと意気込んでいたのですが、三日目ですでにその意思是緩いものとなっていったのです。もちろん大浴場でしっかり体を温めて、これまでの疲れを癒しました。

います。

☆ 門信徒の集い 10月15日午前10時～

10月15日朝席は門信徒の集いです。前住職の時は『65歳以上の集い』と書いていました。とはいっても若い人にも参ってほしいということから名前が「門信徒の集い」になりました。出来れば若い人を誘ってお参りください。本堂が若い人や昔若かった人でいっぱいになれば、うれしいなと思っています。今回は一日だけの法座です。誘い合わせてお参りください。

浄土真宗本願寺派前門主 大谷光真著 「あけぼのすぎ」

— 浄土真宗一口法話 —10月

「念仏の中で阿弥陀佛に懐かれている自分がここにいる」

(岡亮二)

児童念仏奉仕団に参加された皆さん、ようこそ本願寺へお参りに来て下さいました。今日は朝早く起きて、この総御堂で、ご一緒にお正信偶をお勤めできたこと、素晴らしいことです。眠かったですか、脚が痛かったですか。

お正信偈は、親鸞聖人が、阿弥陀如来さまのことを漢字で歌にして書き残して下さいました。

皆さんで、ご奉仕のお掃除をして下さって有り難うございました。百年前、二百年前の方々も皆さんと同じように、ここで南無阿弥陀佛と称えながら、お掃除して下さいました。お隣の今修理中の建物、御影堂は今から三七〇年程前に建てられました。昔の人々の気持や願いを思い浮かべてみて下さい。

今、皆さんとご一緒に「南無阿弥陀佛」と称えました。どんなことを思いましたか。「南無阿弥陀佛」は「阿弥陀如来さま こんにちは」という挨拶、「阿弥陀如来さま おまかせします」という根本の意味、「阿弥陀如来さま、有り難うございます」というお礼の意味があります。いろいろの意味があるのは、阿弥陀如来さまが、いつでもど

こでも 私のことを心配して下さい、喚びかけて下さるからです。

辛いとき、寂しいとき、阿弥陀如来さまを思い出して下さい。後ろから、支えて下さい。嬉しいとき、楽しいときも阿弥陀如来さまを思い出して下さい。喜びを広げていくことを教えて下さいます。

今、自分だけで、喜んだり悲しんだりするのはなく、家族、友達、世界中の人々、動物や植物と一緒に生きていることを思って、一時ひとときを大切に、過ごしましょう。

また、次の機会に、ご家族の方やお友達と一緒に来て下さるのを楽しみにしています。



10月 東井 義雄師

「生」と「死」をこえて つながっている「いのち」

くつ音

コツコツコツ お向かいのおじさんのくつ音

コツコツコツ こんどはおとなりのおじさん

八年前にお父さんに死なれた私は

お父さんのくつ音をしらない

破れたくつをはいたお父さんでも かまわないから

お父さんのくつ音がききたい

一度でよいから きいてみたい



お向かいの家にも「くつ音」が帰っていきます。おとなりの家にも「くつ音」が帰っていきます。でも、この子には、「破れたくつ音」も帰って来てはくれないのです。

このさびしさに、この子は、今気がついたのでしょうか。きっと、きっと、毎日、毎日、夕方になると、帰ってきてくれるはずのない「くつ音」を待ちつづけていたのです。だから、「お向かいのおじさんのくつ音」も、「おとなりのおじさんのくつ音」も、ちゃんと、聞きわけることができるようになったのです。

父と子も、ひとつながりにつながりあっているのです。死しても、まだそのつながりは切れないのです。「生」「死」を超えて、いのちが、つながっているのです。

☆ 人が好きで、バレーが好きで



規則正しい草履の音を回りに、ひびかせながら体育館シューズを肩にぶらさげ毎日のように中野東小学校の体育館に出かけて行く姿が目の前に浮かびます。

人が好きで 運動が好きで バレーが好きで祭りが大好きでカラオケが大好きな豪快な感じの人でした。

今までの人生どうだったと聞きましたら「楽しゅうて やれんかった」と言っておりました。こんな楽しい人生にしてい

ただいた皆様に感謝申し上げます。

松本武雄 6月1日 67才の人生を閉じました。私としての思い出は赤帽の車で岐阜県まで行き、まわりの美しい山々と一緒に眺めたことです。 松本トミコ

法名 釋武講 俗名 松本武雄 平成26年6月1日往生 行年68歳